

がんば

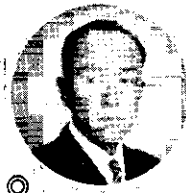
報行部 印刷所
会友部 印刷所
育小友会 印刷所
島三小育友会
発行部 印刷所
島発 報 刷 所
印 刷 所
つ かわ 印 刷 所

〔第42号〕

家庭教育雑感

—喜びも悲しみも—

教頭 園田秀利



◎ きょう

は、十二月八日、かえりみれば、昭和十六年十二月八日の、あの日思い出す。私は十六才で師範学校三年生、早朝の大本営発表の臨時ニュースに夢破られて、極度の緊張と不安の交錯する感情を、おさえ切れなかった、あの日のことを。それから四年間一億の国民の生活が、どんなものであったかは、その時の経験のない人には、わからない、苦しい日々であった。それは、心の世界も物の世界も、太平洋戦争の開戦の日から満三十四年、過ぎし日は遠くなり、当時を口にする人も少なくなったこの頃ではあるが、やはり、その日がくれ

ば想い出す。今の私たちにとって、その日は(十二月八日)何を語りかけているのかを、時折しみじみと考える。

◎ 親は子どもに対して、愛情のすべてをかけて、その成長を願う。それは、どの親にも共通する心情である。そして、それは何物にもかえがたい、心象作用であるといえる。しかし、その愛情が、自分の子どもを愛するという、美名にかくれて、親自身の、自己愛であるならば、その愛情は真実の愛情とはいえないのではなからうか。多くの親御さんの中には、私は、親として、こんな子どもを愛しているのですよ。——といわんばかりの方もいらっしやる。果し

て、その親御さんの子どもは、親の愛情を、まともに、ありがたく受け入れて、感謝しているのだろうか。真の愛情は、ことばとか、宣伝とかではないはずと思う。

親の心子知らず——。

◎ このごろの大人も、子どもも、本当の喜びや悲しみを遠くに忘れ去ってしまったているのではなからうか。ずっと前になるが、映画「喜びや悲しみも幾歳月」という、燈台守夫婦の、物貧しくとも、心豊かに生き抜く、純愛映画があったが、年月の経過は、私たちに、喜びと悲しみを、うばい上げてしまったような気がしてならないのは、私一人ではあるまいと思う。喜びや悲しみというのは、笑うことと、泣くことではないと思う。本当の喜びとは、本当の悲しみとは、——。

産物行商に行ったものである。屋敷に帰ってくる時、新聞紙の三角袋に、手作りの鮎を六つ七つ、みやげに買って、ざるの上に乗せて帰ってきた。孫の私にその包みをくれたが、肩のいたみも忘れて喜び、もらった私もまたよるこび、心と心を十分に通い合わせて喜んだ遠い日を想い出す。本当の喜びとは、私ひとりだけが喜んで、ほかは喜ばないのは、喜びのうちには入らないのではなからうか。今の子どもは苦労がない、苦しみに耐え、困難に打ち勝って、或ひとつの仕事をおえたときに感ずる、成就感、充足感というものの、経験に乏しいように感ずる。そして、何を与えても、心底から喜びの表情を表わさないような気がする。それは、他者に与えることが乏しくなり、自己中心の、自己愛に、大人も子どもも、おぼれかかっているからではないかと反省する。

◎ 現代の社会は、高度に細分化された社会といえる。合理化され、機械化され、無駄のない社会である。そして一見はなやかでもある。半面、うもれ日のさす、山の奥の細道を、一歩一歩、落葉を踏みしめて、高嶺をめざすような、落ち着きもない社会でもある。昔と比べると、便利至極、奥さん方の仕事も減り、余暇もいくら出て来た。肉体労苦も少なくなった。だが果して今の社会は(イデオロギーや政治の問題は一応おいて)、私たちにとって、幸福な社会といえるだろうか。もし幸福でないとするならば、社会そのものが悪いのだろうか。私はそうは思わない。私たちがとりひとりの心の問題であり、強さと、たくましさの問題だと思ふ。電気がとまり、ガスがとまり、石油がなくなる。後にのこるものは、生き抜くたくましさは、生かさない。そのたくましさは、人をはねのけ生

きる、たくましさであってほ
ならない。時計は極めて精巧
で近代文明の象徴でもある。
しかし、ひとつ歯車がこわれ
ると、時計そのものはそのは
たらきを止める。私たちの家
庭が、或ひとつが、駄目にな
って(心の面も、物の面も)
瓦解してしまい、空中分解す
る家庭であってはならない。
そのためには、強く、たくま
しく生きる迫力と、何物にも
動じない強固な心を、子ども
たちに植えつけなくてはなら
ないのではなからうか。

今の社会は(家庭は)、或
る面(物豊か故に、非常なも
ろさ弱さをもっている)では
脆弱である。その弱さの中で
生きる子どもは、……。

◎ 教育とは、人生とは、
「出会い」であるといわれる。
育ち行く私たちの子どもに、
より多くの人たちと、心の通
う「出会い」をさせること、
それが親のつとめではないだ
らうか。私自身、五十才をむ
かえようと、今日まで幾
十幾百の人々と「出会い」、
そして、その「出会い」の中
で、教えられ、考えさせられ
てきた。その出会いの人方の
中には、既に今は亡き方々も

いられる。しかし、真実に人
と人が「出会い」をしたと
きの、心の感動は、私をして
勇気づけ、生きる無限の希望
を与えてくれた。

感動のない、喜びと悲しみ
は、人を動かさない。
本当の喜びと悲しみは、感
動の中にこそあると思う。
大人も、子どもも、人間と
しての、真の心の感動を求め
て生き抜くことこそ、私たち
が求めなければならぬもの
だということを、しみじみと思
いつつ。

※ ※ ※ ※ ※

葉っぱと
根っ子

蛭子鼻 久保 亨

我が家には、もうすぐ四才
になる男の子、小学二年・五
年に女の子がいる。彼らは相
当派手に兄弟ゲンカをしたり、
又いたわり合ったり、ごく平
凡な楽しい家庭だ。皆さんの
家庭とほとんど大差はないだ
らう。ただ違っているところ
が一つある。それは、一家が、
ほとんどテレビを見ない点だ。
こう書いてしまうと、よっぱ

ど勉強や読書でもさせている
かのように思われるかも知れ
ない。ところがどうだろう。
全く自由放任主義だ。長男は
近所の子供達と棒切れを持つ
て暗くなるまで遊び、長女は
学校から帰ると竹馬を乗りま
わし、次女は体力が無いのか、
帰宅すると、二時間でも三時
間でも起こされるまで昼寝を
している。別にこれといった
手伝いをするでもなし、机に
向かって勉強していることも
ほとんど無い。夕食が済むと
寝転がって本を読むくらいだ。

十一月の初め、佐世保で開
かれた教育研究会に出席し
て、東京工業大学の遠山啓先
生の講演を聞いた。先生は、
人間の学力や能力は一本の植
物のようなものだと言われ、
現代の教育は、根っ子の部分
を教えるのでなく、落葉樹の
葉っぱの部分だけを教えている。
この部分は、やがて枯れ、落
ちてしまう。このように、ど
うでもよい部分を教えている
のが現代の教育だと語られ、
大変、考えさせられた。私た
ちは、もっと根っ子の部分を
教えてもらうように、教師や
教育委員会にお願いをする必
要があるように思う。

私は、子供の成績を、あま
り気にしない。小学校では、
読み、書き、計算が充分でき
れば良いと思っている。この
点では、今の通知表が、一学
級に5か2-3人と決められ
ていることは、好ましくない
ように思う。できる子供が十
人いたら、その十人に5をや
ってほしい。その子なりに一
生懸命頑張ったその努力を十
分に認めた、又子供が失望し
ない通知表を私は望んでいる。
横道にそれたようだが、子
供の人間性をつちかかってゆく
のは読書だと思ふ。子供に本
を読ませるには、どうしたら
良いだろうか。多くのお母さ
ん方が困っておられるのでは
ないだろうか。私が感じてい
る点を二・三書いてみよう。

第一に、環境だと思ふ。私
は辛い仕事のために本を読ま
なければならぬ。テレビを
見ていると、一週間に二回か
三回話す原稿もできなくなっ
てしまう。しかし、テレビが
悪いというのではない。良い
番組は見せ、そのためには、
時間を守らせる必要がある。
又、テレビを茶の間に置かぬ
ようにすることも大切だ。我
家では、夫婦の寝室に置き、

見たい時は、わざわざそこま
で行って見ることにしている。
テレビを家庭の中心である茶
の間に置いて、学校から帰っ
て床に入るまで画面に支配さ
れている家庭は、テレビの音
で一見にぎやか、かつ、和や
かそうにみえるが、家庭相互
の心の通い合いを考えると、
さびしいように思える。

第二に、読書は、押しつけ
てはいけない。感想文など無
理に書かせる必要もない。遊
びの中で寝転がって読む読書
をおすすめしたい。

第三に、大人が読書に対し
深い関心を持ち、積極的であ
るといふこと。子供にばかり
読め読めでは、子供は決して
読まない。自分も読むとか子
供と共に読み合う。読んで聞
かせるといふ態度が必要であ
るように思える。

第四に、子供が読んで感動
する本を選ぶことだろう。そ
のためには、本の紹介書や、
新聞の読書紹介欄を利用され
ることが良いと思ふ。

勝手な事を書いてしまった
が、あまり学校の成績のこと
を気にしないで、根っ子の部
分にあたる読書を、のびのび
とさせたい。又、読書が好き

になるような指導をしていた
けるよう、先生方にお願
致したい。

読むことの 生活化

六年五組担任
松崎 俊雄

読むことと一口に言っても
いろいろの場合があるよう
す。

大人であれば、鯉を上手に
飼育するにはどうしたらよ
か知りたい時とか。何かわか
らないものを調べる時とか。
文学書を読んで生きるため
の糧をさがすとか。読む人の
目的によりちがいがあ
す。

だいたい大きく二つぐら
に分けられるでしょう。
第一は、何かを調べたり、
知りたい時でしょう。もう一
つは、大げさな言い方をす
るならば、読み物の世界に
人間の生き方を考える時
でしょう。

昔から学校でも「調べたり」
「知るため」に読むことは、
殆んど教科で大切にされて

きた学習です。子どもが、何
かを調べる時、そのことにそ
つて本を選び、本のはじめに
ある目次や終わりにある索引
を見てページをめくり、さが
しあてたら大事などころに線
を引いたり、ぬき書きをし、
それをもとに「まとめる」知
的な作業をするわけです。今
「まとめる」と一口で言いま
したが、なかなかむずかしい
脳の活動なのです。本から大
事なものだけをぬき書きした
だけでは、丁度、木の枝の葉
をとってバラバラにしただけ
で必要がなくなるとすぐ忘れ
てしまいます。

では、なぜ「まとめる」
(読みとり技術の一つ)が、
必要なのでしょう。か。
今の子どもは、昔と比べて
記憶する知識の量は、何十倍
でしょう。その大量の知識を
バラバラにおぼえるのは困難
です。だから、しらべたもの
の一つ一つのぬうちを考えた
り、似たもの同志で関係づけ
る「まとめ方」が大切になっ
てきたのです。

このような考え方を本校で
は、十年前より国語学習の中
で「トレーニング学習」とし
て位置づけています。このこ

とについて少しばかり説明を
します。

子どもたちの国語のノート
に「みとおし」「ふりわけ・
重みづけ」「ねりまとめ」の
文字が書いてあると思います。
先ず「みとおし」と言いま
すのは、端的に「ものの本質」
「原理・原則」「中心概念」
と考えて使っています。国語
科の中で子どもに教える場合
物語文章では「主人公の強い
気持ち」はどういう気持ちで
しょう」と問いますし、説明
的な文章では、「書いた人の
一番いいところは、何でし
ょう」と問います。そうして、
文章全体をよく読み、短かく
まとめるわけです。

次に「ふりわけ、重みづけ」
では、「みとおし」にそつて
気持ちのあらわれている文を
選ぶわけです。このようにす
ることを「ふりわけ」と教え
ています。たとえば、「お母
さんが心配だ」という「みと
おし」を立て、これに関係の
ある文をいくつか選んだとし
ます。この状態では、選ばれ
た文がバラバラですので、似
ている気持ち同志を束にして、
いくつかの「気持ちのまとま
り」を作るのです。このまと

まりを意味段落と言っていま
す。また、まとめることを
「重みづけ」とつけています。
最後に「ねりまとめ」です
が、これは、読み手である子
どもが「この文章で言いたい
のは、これだ」と納得し、主
人公の神を越え、広く読みと
つたものを言います。この
「ねりまとめ」で、読みの広
さ深さがわかります。

以上のようにして、三小で
は、読みとり方の基本的な技
術をトレーニング学習で学ば
せています。

読む技術を知ること以上に
大切なことがあります。それ
は、子どもの読もうとする姿
勢であり、もつと知りたい心
を育てることだと思ひます。

しかし、最近では、サービ
ス過剰の参考書が数多くありま
す。ですから、苦勞して調べ
る必要が少ないので、それ
に、テレビ・ラジオで知りた
いことが容易に入手できます。
特に、テレビは、子どもから
読書の時間を奪い、親と子の
対話を奪ってしまいました。

更に学校では、教える内容が
増えたために時間の「ゆとり」
がなくなっています。このよ
うな状態では、子どものもつ

と知りたいと思う「知的な好
奇心」を育てることは難しい
現状です。このままでは、本
だけでなく、社会に対しても
無関心な子どもが増えるばか
りです。そこで、子どもたち
の日常生活の中で起る出来事
に目を向けさせたらどうでし
ょう。そこには、対話の復活
があり、「はてな？」の疑問
が生れるのではないでしょ
うか。そうして、解決のため
の方策も考えられるでしょう。
更に、解決の喜びも生れてく
ればと念願します。

いい本には、目に見えない
宝物が隠されています。でも
読む人の心がまえと読む力
で隠されているものをダイヤ
モンドとして見抜くか、ただ石
として見るか決まります。こ
のような眼力を二十一世紀か
ら来た留学生に養ってほしい
ものです。そうすれば、誇大
宣伝や流行に惑わされる人が
減るでしょう。



親子の 触れ合い

姪子町 宮崎 ヨシエ

私は三人の子(男二人・女一人)を持つ平凡な母親です。

会員の文芸

—ご投稿ありがとうございます—

る時もある様です。たまに主人がゆっくりしている時四年の女の子は向つていきます。父親も「ヨシシ、コイ」といつて一日の疲れも忘れ意にかえり元気よく「ドタン、バ

家事に追われながらも普通に育て、大きくなった。それを感じた事は低学年の頃まではいろいろその日の事をよく話しますがだんだん成長するにつけ反抗的になりやゝもすると無口になりがちです。特に父親との接する間が少いので子供も親と一しよに遊んで見たい気持ちになる時もある様です。たまに主人の女の子は向つていきます。父親も「ヨシシ、コイ」といつて一日の疲れも忘れ意にかえり元気よく「ドタン、バ

三つの提唱

広馬場 伊藤 八郎

一、現代の教育論として話題を政治的にも花を咲かせてる様ですが子供の授業には何人位の人数が一番良いのでしょうかと尋ねますと、ほとんどの先生方は三十数名が理想的で一番良いとの返事です。現実には法律で定員四十五名と決定されてます理想とは程遠い

タン」と相撲をとったり、腕ずもうをしたりします。そばで見ている中三の二男も加わって親子共々楽しく遊んでいる様子を見るとほゞえましくなります。こうした中で子供は学校で教えてもらえない家族の肌と肌の触れ合いを感じるのではないのでしょうか。親の職業はそれぞれ違つていても子を思う心は同じだと思えます。たまには親馬鹿になつて子供中心に楽しく話し合ふ事によって愛情がわかりあひのびのびとした子供に育つのではないのでしょうか。

過密の人員だそうです。こゝらで会員皆様の要望として学級定員の引下げを当局へお願いしてはと思えます。又全国のPTA会員の方々の心を動かす様に此の運動の輪をひろげてはどうでしょうか。

二、親子の断絶とは時々耳にする言葉ですが毎日の学校給食はパンが主体ですがこゝらで週に二日位はお母さんの心のこもったおにぎり弁当にして母と子の心からのふれあひを感じさせては……。

三、ランドセル廃止運動は何年も前より話しは出ますが仲々話しの進み具合は良くな出ては消え行く様ですが、六月の授業参観(三年生)では忘れ物をする子供が十名より二十名にも及ぶとお聞きする時に交通安全面では問題視されてるランドセル廃止問題をもう一度考えて戴けないものかと想いますが、皆様の御意見は如何でしょうか。



思い出話し

栄町 石本千和

竹竿の先に、メスのオニヤンマをくくりつけて、「ヤンマケシ、ヤンマケシ」と云いながら飛ばしている、オスのオニヤンマが群がって来る。それをつかまえて、レンジの花をしっぽにくくりつけ飛ぶ競走をして遊んだ子供の頃のワンパクぶりを話してやると目を白黒させて、ヤンマってどんな虫と質問される、早速百科辞典を引っ張り出して、こんなトンボだよと教えるとめずらしそうに見る。

今頃の子供は、可愛想だなどつくづく思う。
野原は、なくなつて、家々、道路は、車々。
遊ぶ場所もなく、塾に、追い回されている子供が多いので遊ぶ相手さえいない。

この子供が、大人になった時、自分の子に、どんな思い出話しをして聞かせるのだろうと心配になって来ます。

連珠

育友会副会長
本田 武彦

誰もができ、誰でも楽しめる「連珠」といつても分らない人でも「五目ならべ」といえば「ああ知つている」というに違いありません。
ところがその連珠も入りやすくして誰でもが知られているわりには深く理解している人が少ないようです。
それでは「連珠」とはなに

簡単に云つて「五目ならべ」の進歩発展したものです。
五目ならべは競技の方法が如何にも単純で興味がうすく、また先手が非常に有利であつて、ともすれば困着将棋の余技であるかのように思われ、子供の遊戯としての存在からぬけ出せませんでした。

これに創意と改良と新規則を加えて、先手、後手の均衡をはかり、打ち方の範囲を拡げた現在の連珠は、過去のものとまったく異つたものであります。
そして、入り易いにもかかわらず、無限なまでの深遠、宏

大なる内容もち、スリルに富む痛快さ、ズバリ割り切った単刀直入な爽快味、僅かな費用と時間があれば、どこでも誰とでも、出来る便利さとしてさらに連珠が他の競技と異なる大きな利点は、一人でも「詰め連珠」でまた、遠い所の人とは「通信戦」という競技方法で楽めるという特殊性など、わが国で発達した実に優れた長所をもつ大衆的競技であるといつても決して過言でないと思います。競技方法を簡単に説明しますと、先手が黒石を持ち、後手が白石を持って交互に盤上に石を並べ、「たて」また「よこ」または「ななめ」に五珠が並べば勝という至って簡単な競技方法ですが、これだけの規定ですと、いかにも先手が有利なため、先手の「三三」「四四」などが禁止され、そして黒1白2黒3までの形を規定する二十四種の珠型が決められております。

この新連珠の骨子は、現在もそのまま継承され、プロの棋士の出現をみるまでに連珠道が発展したのです。また、現在の有段者対局規定では「五珠二ヶ所指定打ち」という最高の技術を要する対局規定と、完全に理想的な手合い割(強い人と弱い人が

対等に対局できる仕組み)を昇段点制度などが実施されており、島原市でも多くの有段者が親切に指導しており、連珠技の終着駅が無限の彼方にまで遠い、奥深いものとなっているのです。皆様も一度石を持って見ませんか。連珠技の上達とあわせて人格の高揚に役立つと思います。ひととおり連珠のことを書いてみました。この頃の子どもたちの生活をながめてみると、テレビにかじりついたり、プラモデルに熱中したり、ミニカーを集めてよるこんだり、自分で体を動かし、自分の頭をはたらかせて、創意工夫するというような面が大変不足していると思います。そして、与えられたものの世界に安住しているのではないのでしょうか。

私は、連珠をやってみて、自分で考え、判断し、思考力をねり、先を読む予見力等が十分連珠をとおして養えるのではないかと思えます。連珠だけが万能ではありませんが、親と子が連珠をとおして対局の中から、親子の情愛もおのずと交流できる面もあると思えます。親と子、子どもどうしの生活(あそび)の中に連珠をとり入れてみてはいかがでしょうか。

ハーモニカの練習

靈南 熊本秀子

私連の子供の頃は楽器と名の付く物には縁がなく、先生の引かれるオルガンに合せて、机を手でたたき乍ら歌の練習をしたものです。

最近の子供は幸せなものでハーモニカ、木琴、笛、と楽器で楽しめるのですから、今年の冬一年生だった息子が、「夕やけこやけ」を、ハーモニカで練習して居るのを聞いて、これではついていけないのでは……と不安になり、今迄手にした事も無く自分は音感ゼロとばかり頭から思い込んで吹いた事も無く、又音譜と、吹く、吸う、の場所を覚えるのは大変とばかり思っていたハーモニカを子供と一緒に練習して見ました。「お母さんもあなたと同じ一年生よ。あなたが覚えて来た分をお母さんにも教えて……と子供に自信をもたせて「ふく」「すう」をくり返して吹いて居る中に(年の甲)でしようか、子供より先に出来た時の嬉しさ。やってやれない事は

給食のパンはまづいい?

下川尻北 内嶋須美香

給食のパンはまづいいとよく耳にする。私も子供達が学校の帰りにパンを犬にやったりみぞに捨てたりしているのを見かける事がある。近頃店頭と並んでいるパンの豪華なところといつたら目をみはるほど昔だったらさしづめ高級菓子というところだろう。パン独特の香りさえ失せてしまったように思うのは私だけだろうか。それにひきかえ給食のパンは確かに粗末すぎる。しかしそれが食べ残す原因かどうか。我が家の子供達もよくパンを持ち帰るでもそれはパンがまづいいという理由からではなく牛乳や温食で満腹になつた胃袋にはもはやパンのはいるところがないというのが本音らしい。子供達の持ち帰るパンはまるまる一個の時もあるれば半分だったり、ときには皮だけの時もある。よくしたもので兄達の持ち帰るパンを毎日心待ちにしている腕白坊主が我が家にはいる。主人いわくすきっぱらにまづいいものなし。

元氣良く
ただいまと云う
子を迎え
見学旅行の結果聞く我



壺井栄の

童話から

蛭子鼻 久保良子

先日、学校図書より子供が借りて来た本を見て、私は「ヤッター」と思いました。

それは、数日前、本屋をブラついていた時、もうそろそろ、この本を読んで欲しいのだがと、心秘かにいつかは買いつけようと考えていた本であつたからでした。

その本は壺井栄の童話集です。この本の中のどの主人公達の生活も貧しく、ギリギリの生活をしています。何故ならこの童話が発表されたのは、敗戦後、昭和二十二年頃からのものだから、けれども、主人公の子供達は、貧しくてもちっともシメシメしていません。三輪車が欲しくつても又、ピアノを習いたくても到底そんな望みは、かなえてもらえぬ主人公達。こんな主人公達は、丁度幼い頃の私達でもありました。

雨降りには、長靴をはけぬ子。そうです、私共も、その頃傘も無しで、ハダシで学校へ通いました。冬はもつと辛

かつたのです。何ヶ月も雪に閉ざされる東北で育つた私の思い出は、その頃(昭和二十五年・六年)どこから引き揚げて来て開拓のために私共の土地へやって来た同級生の女の子のことです。彼女は、オーバーを持っていませんでした。家から学校までの道のりの遠い彼女は、長い橋を渡って学校へ通います。そこは、シベリアからの冷たい厳しい風が客赦なく彼女の小さい体に吹きつける難所です。

一度も、その子に言葉を交した事の無い私でしたが、手持のもう一枚のオーバーをあけたら、翌日は、ニコニコして学校へ着て来ました。

壺井栄のこの本を読みながら忘れかけていた、そんなことまで思い出しました。

豊かに物質に恵まれている今の子供達が、何も無かつた敗戦後の子供達からこの童話を通して、たくさんのプレゼントを受けてほしいと、欲張った願いを持つのです。

おまわりさん

津町 黒田睦子

一ヶ月ほど前の暑い日でした。あき子を連れて広馬場の交番所の前を通りかかったら、「お母さん、私は、二回ここに来た事のあるよ」と言ます。驚いて、どうしてと聞くと、「一回目はね、かなちゃんとおおちゃん、三人でまいご

の人は、連れて来たときあ、そして二回目はね、なおちゃん、二人で、「スプーンは拾うたけん、持って来たときあ」と、言ます。「スプーンば

持って行って、おまわりさんは何んて言われたね」と、聞くと、「なあんも言わんで、ずうっと、ニコニコ ニコニコ 笑うとらしたと」と、交

差点を渡っているのも忘れて思わず吹き出してしまいました。

「そして、そのまま帰って来たのね」と聞くと、「ああ言わした、今度、二〇

円や、三〇円、お金ば拾うた時に持つておいでねって、笑いながら言わしたよ」、「な

て、スプーンは持つて行ったら、笑わしたとやろうかね」と、あき子が笑いもしないで聞くので、こまつてしまいました。時折り、交番所の前を通つた時、中をのぞいて見ますが、いつも留守で、まだそのおまわりさんに、お目にかかつた事ありません。たぶん、若いおまわりさんだろうと想像しています。

泣き虫親子

蛭子鼻 松尾勝子

幼稚園でも家庭でも大変な泣虫であつた、吾が子が一年生になり、どんな様子で勉強をしていくのだろうか、私

は不安と期待を抱いて初めての授業参観に出席致しました。いよいよ吾が子がおそろおそろ手を挙げ先生に当てられて答える段になりますと、も

う私はドキドキ心臓が高鳴り、涙があふれるのをどうしようもありませんでした。母親とは子供の事となるどころも感情が激するものなのでしょう。か。そつとハンカチで眼頭をおさえて、周囲のお母さん方に

子供の遊び

下川尻北 西川清美

努力をしていました。吾が子におとらず私は泣き虫な母親なのでした。

独身の頃は「教育ママ」という言葉にイヤラシさを覚えた事がありました。が私もそのようなママとなつて自分の成長を期待と不安をいつまでも持ちつづけてゆかなばならないものだろうか本当にシンドイこれからの年月を考えさせられてしまいました。

心やさしい先生、どうか子供達をよろしく、又私共のシンドサをも軽くして下さい。よろしく御願ひ致します。

先日学校からのお便りで、催眠術遊びがはやっていると、か、びっくりいたしました。

子供同志で本当にかかると、のでしゅうか。テレビではよく見ますが実際に見た事もありませんし、テレビの中の出来事のように思つていました。が自分の子供達の身近でそんな遊びが流行しているとは親として本当に心配して居ります。話ばかりですが、最近子供の洋服を洗濯しています



といつもポケットの中に石ころがはいっています。私は洗濯をしながら、又こんなものをポケットにとすてていたのですが子供があとでその石ころを捜しています。何んにするんだらうと思つて聞いて見ますと「げんげんば」に使うんだと云つて箱の中に一ぱい

冬休みを楽しくするために

生活 部

今年も又冬休みがやつて参りました。子供達は首を長くして指折り数えて待っていました。それは夏休みに比べ期間こそ短いですが、クリスマスやお正月など楽しい事が多いからではないでしょうか。

子供達は冬休みにはいると学校から開放されたという感じで一ぱいです。そしてこの期に非行にはしりやすいものです。家庭では「師走」の忙しさに追われてしまい、つい子供を忘れがちになるのではないのでしょうか。

子供は家族の大切な一員です。子供と一緒に「冬休みをよりよく過ごすためにはどうすればよいか」各家庭で話し

色々な石を集めてみました。子供はその箱の上に「私の大事な物」と書いてたいせつにしまっています。私も子供頃色々なものを箱に入れて宝ものにしてた事を思い出しました。そしてこんな素朴な遊びで終わってくれることを願っています。

- 合つて見てください。冬休みに特に守つてもらいたいことを大まかに掲げてみました。親子で守り、守らせてくださることをお願い致します。
- 一、生活(遊び)について
 - 1 火遊びをしない
 - 2 午後五時までには家に帰る
 - 3 明るいあいさつをする
 - 4 外に出る時は必ず名札をつける
 - 5 外に出る時は行き先、友だちの名前、帰宅時刻を告げる
 - 6 用のない店(ユニード、ストアーなどにも)にはいかない。(ユニードやストアーは遊び場ではない。)
 - 7 お金はむだづかいせず、計

- 8 映画や保養センターなど自分達だけで絶対行かない
- 9 テレビ番組は選んで見る
- 10 良い本を読む
- 11 少年団行事には進んで参加する。
- 12 健全な遊びをする。(なわとびなど……)

- 二、健康安全について
 - 1 交通のきまりはいつも守る
 - 2 一日一回は外に出て、体を動かす
 - 3 病気の治療をする
- 三、学習について
 - ◎時間
 - 低学年 三〇分位
 - 中学年 六〇分位
 - 高学年 九〇分位
 - ◎内容
 - 冬休みの友
 - 二学期の復習
 - 三学期の予習
 - 特技、趣味などを生かしたものだ

十円もつてはいった店にどんな欲しいものがあるか分りません。いくら休みでもちゃんと三度のご飯は家の中で食べましょう。食べさせましょう。なるべく家族そろつて一

緒に食べましょう。重ねてお願い致します。規則正しい、冬休みの生活ができるように子供と一緒に話し合つて下さい。

読書感想文から

偉大なる王

五年三組 峰 友 幸 治

ぼくは、動物はたいへん好きです。でも、トラのようにかわいというより、むしろおそろしいといった動物は、あまり好きではありませんでした。

しかし、きびしい大自然の中で、一人いきていくための母とらの子とらに対する、きびしいしつけは、人間の母親が、こるんだ赤んぼうを、けつしておこそうとは、せずにどんなに泣いても、自分の力で立つことを教えようとする、そのすがたを見ているような気がしました。

ひとり立ちするまでには、きびしい、いくつものけいけんを、つまなければならぬ点で、人間も、このトラの子と同じだと思えます。ぼくは、この本を読んでいくうちに、いつの間にか、王のみかたになつて読んでいました。

牛や馬をおそう王は、けつしてよいとはいえませんが、金ほしさに自然をはかいする人間のために、その生活源をうしなつた王の生きるための戦いなのです。

人間は、ひきょうなしで、わなをしかけています。しかし、王はさすがに、山の神といわれるだけあって、い

ちどだつて、わなにかかったことがありません。こんな場面では、思わず、「ざまあみろ。」と口に出してしまいました。

又、王の仲間にたいする、思いやりの深さには、ほんとうに、心をうたれました。王は、えき病のいのししをたべたせいで、ひどいふくつうにおそわれ、おきるのも、こんななじょうたいにあります。たが、それでも、めすのトラが足をしばられているのを見ると、ひっして助けようとして、ついには、人間のもちこんだ、黒いじゅうに、うたれてしまいました。

こんな時、何もしてやることのできない自分が、はらだたしくてなりませんでした。そして、それは、人間の、ひとじちをつかった、ひきょうなわなだったのです。

それに対して、王はどうでしょう、自分の持つちえと力で、せいせいどうどうとたちむかっていたのです。ぼくは、いまさらのように、人間というものが、わからなくな

ってきました。しかし、満州の密林の自然を愛したツンリー老人と王との出会いは、人間としてのぼくの、せめてものすくいでした。ツンリー老人のあのけつだん力、なにものをもおそれぬ自信、それに死を目前にしても、けっしてひるむことなく前進するせい神が、ツンリー老人のし線の

中にかがやくとき、密林の「王」にさえ、深い感動とおそれの心をおこさせる力をもっていました。それが人間ふくしゅうの血にもえていた王道をゆずらせずに、おかなかつた理由だったのです。

このすばらしい、老人との出合いを最後に王は、大頭頂子山の頂上に、巨大な姿を横たえました。王は、この地から、いつまでも、大森林のようすを、見守っているのだと思います。

ぼくは、金のために王を殺した人間のようにはなりたくありません。自然をたいせつにする心、正しいはん断と行動のできる、王や、ツンリー老人のような人間にならうと思ひます。

育友会文庫の巡回について

本年度第二回めの巡回を左記の日程により実施いたしますのでご利用ください。

町内 保管場所

新山東 永門重明宅 12月20日/1月8日

新山西 松隈保吉宅 1月9日/1月28日

崩山 稲田憲藏宅 1月29日/2月17日

坂上 古賀武成宅 12月20日/1月18日

坂下 広田誠一宅 1月19日/2月17日

八幡上 佃 実宅 12月20日/1月3日

八幡下 荒木和子宅 1月4日/1月18日

栄町 松下市兵衛宅 1月19日/2月17日

桃山 有馬三郎宅 12月20日/1月18日

霊南 佐藤浩司宅 1月19日/2月17日

蛭子町 鉄本シズヤ宅 12月20日/1月8日

白土上 上田智政宅 1月9日/1月28日

白土下 高木 猛宅 1月29日/2月17日

浦田上 坂本政幸宅 12月20日/1月18日

浦田下 江川照男宅 1月19日/2月17日

有・舟 浜田元成宅 12月20日/1月8日

津町 牧 国義宅 1月9日/1月28日

元舟津 元島久一宅 1月29日/2月17日

広馬場上 佐藤 昇宅 12月20日/1月18日

広馬場下 池田武仁宅 1月9日/1月28日

湊新地 高田喜三郎宅 1月29日/2月17日

中組 時合キヨカ宅 12月20日/1月18日

蛭子鼻 久保 亨宅 1月19日/1月28日

南風泊 松尾昭和宅 1月29日/2月17日

川尻 山崎フミエ宅 12月20日/1月8日

下川尻北 内島未明宅 1月9日/1月28日

下川尻南 柴田安馬宅 1月29日/2月17日

なお、さいごの町内は、大変ご迷惑をおかけしますが、学校までお届け下さるようお願い申し上げます。

編集後記

皆様方の御協力を戴きました、ここに本年度第二回目の「がんば」をおとどけすることが出来ました。有難うございました。部員一同、心から感謝致しております。

年度初めに、たくさんのご投稿を戴きましたが、紙面の都合で、第一号に全部収録出来ませんでしたので、その分は大変運くなりましたが、本号に掲載致しておりますので、悪しからず御了承下さい。

尚 今後共、どしどしご投稿下さるよう、お願い致します。